

AEDによる心肺蘇生で人命救助 即応予備自衛官の訓練の賜物

私は平成二十八年四月二十二日の十五時頃、大田区の商店街をトラックで集配の勤務中に仰向けに倒れている男性を発見しました。急いで通行の妨げにならない場所にトラックを駐車して男性のもとに駆け寄ったところ、既に地域住民の女性が男性に対して声を掛けていましたが、男性は口が半開きの状態で意識がなく呼吸もしていません。一刻を争う状況だと判断しました。

私はこれまで救命処置の経験はありませんでしたが、民間企業で働きながら即応予備自衛官として自衛隊の救急法の訓練を受けていたことから、速やかに処置を行う必要があると判断しました。心臓マッサージを女性に任せ、地域住民の情報を頼りに商店街にあるフィットネスクラブからAEDをお借りして急いで男性の元に戻り、落ち着いてAEDによる救命処置を行いました。二回のショックの実施で男性の呼吸が戻ったちょうどその時、救急車が到着したので、勤務中だった私は救急隊員に男性を引き渡し、そのまま仕事に戻りました。夕方、会社に戻ると警察署と消防署から連絡が入り男性が回復していることを聞き安心しました。消防署の方からは、「ごいでAED講習を受講されましたか」と質問され、私は胸を張って「即応予備自衛官の訓練の成果であること」を伝えました。

以前にも増して私の中で救命処置に対する意識が高まり、街を歩くたびにAEDの位置を確認するようになりました。これからも万が一に備え、しっかりと即応予備自衛官の訓練に取り組みんでいきたいと考えています。

最後に、即応予備自衛官の訓練に快く送り出してくれたいただいた職場の方々、この場をお借りして感謝申し上げます。

ヤマト運輸(株)

武井尊弘



レイクタウン防災フェスで自衛隊の活動をPR

埼玉地方協力本部は、五月二十八日(土)、二十九日(日)に越谷市で実施された「レイクタウン防災フェス」に参加し、自衛隊の活動をPRした。

このイベントは、海上保安庁、消防庁、地元自治体に参加し行われ、ヘリコプター「あらかわ」の飛来、地震や煙の体験、マスコットキャラクターとのふれあいなどが実施され、地域の方に楽しみながら学び遊べる一大イベントとなった。

自衛隊のブースにおいて、第一師団の支援による高機動車体験試乗を行ったところ、整理券が瞬く間になくなる程の人気であった。試乗したお子さんからは「何度も乗りたい!」との声が上がっていた。また、中央特殊武器防護隊からはNBC偵察車が展示され、珍しさもあり車両の前で隊員と一緒に写真を撮る方が多く、隊員は笑顔で応じていた。

今回は入間基地修武太鼓も参加しており、自衛隊の様々な活動を地域の方に知っていただくことができたイベントであった。

